



考古資料精選③

石錘

(せきすい)

写真の資料は弥生時代に使用されていた石製の錘（おもり）で、中垣内に所在する鍋田川遺跡から出土したものです。材質は砂岩で、長径9.2センチ、短径5.1〜7.5センチ、重さ約550グラムを測り、中央には紐（ひも）をかける溝が巡っています。主に漁に使う網の錘具に利用されたものと考えられています。

山地などの山々や淵が間近に迫っていた地域の弥生人にとっては、予想以上に豊かな食生活を営んでいたのかもしれない。

弥生時代には中垣内付近まで河内潟と呼ばれる潟（砂丘・砂洲・三角洲など）のため、外海と分離して出来た塩湖であったことから、この地においても漁労活動が盛んに行われていたでしょう。生駒



考古資料精選④

弥生土器

(蓋・壺)

写真資料は弥生時代中期前半（約2200年前）の無頸壺と、それに使用されていた蓋です。元粉遺跡（中垣内3丁目）の調査で、当時の生活面からそろって出土しました。

そろって出土することは稀なことからその歴史的価値の重要性はもちろんですが、共に完形品ということもあり芸術的価値についても高いものと思われま。弥生人の感性をうかがうことの出来る貴重な資料と言えるでしょう。

蓋は直径8.3センチ、厚さ1.8センチを測り、円形で突起（つまみ部）を有し、紐穴が開けられています。無頸壺は口径7.2センチ、器高13.6センチを測り、表面には櫛描文、扇形文と呼ばれる模様が生かされています。また、無頸壺の口縁部にも蓋と同様に紐穴が開けられていることから、おそらく紐のようなもので蓋を取り付けていたことが分かります。

